福島大学教授
明治38年７月11日生
（推せん者）　福島県地質学研究会長外６団体
福島大学教授　安田初雄外１名
多年にわたり地質学に関するかずかずの研究に専念し、論文を発表して、学術文化および産業に多大の貢献をされた。
穴沢　養一　会津若松市宮町１番１号
財団法人　穴沢病院理事長
明治35年３月19日生
（推せん者）　会津若松市教育委員会教育長
戦後の荒廃した社会にあって会津音楽協会を設立し、中央の著名な音楽家を招へいするかたわら女声合唱団、会津交響楽団等の結成と地方文化の向上に貢献された。

10　文化振興懇談会

本県の芸術文化の振興に関する諸問題について、知事、教育長および県内文化人との懇談会を開催した。

(1)　日　　時
昭和45年２月16日
(2)　会　　場
レストラン寿賀（福島市大町７）
(3)　出　席　者
穴沢養一　石原三起子　大谷恭一　春日部たすく
笠原良平　三本杉巳代治　鈴木　伝　高橋良一郎
平井　博　菱沼　儀　本多隼男　門馬直孝　渡辺到源
(4)　懇　談　主　題
①　芸術文化の振興について
ア．本県における文化団体の現状は、県単位の組織16団体、市町村単位のもの約 500団体となっているが、近年、社会の変動に伴い、団体の量・質ともに流動化の傾向にあり、その活動内容も多様である。今後、更にこの傾向が予想される。
イ．地域社会構成および住民意識の変化は、市町村における文化的条件に大きな影響をおよぼしている。なかでも都市化、過疎化に伴う文化行政のすすめかたは時代に即応した施策が要請される。
ウ．本県の文化振興の推進にあたっては、文化団体と行政側が密に提携し、地域文化の向上をはかることが強く要請される昨今である。しかしながら、団体の自主性はいつの時代にあっても確保され、会員の能力開発と団体自体の向上が望まれる。

11　日本画夏期研修会

本県日本画の水準を高めるとともに指導者の養成をはかる目的をもって、日本画彩心会、福島市教育委員会と共催で実施した。

(1)　期　　日
８月１日～３日（３日間）
(2)　会　　場
福島市中央公民館
(3)　講　　師
斎藤亮一（日本美術院院友）
飯塚栖圃（日本画同人）
(4)　参　加　者
87名（内初級者42名）
(5)　内　　容
◦日本画の歴史について
◦材料と描き方
◦これからの地域活動について
実技を中心として、実施したが、初心者の参加が予想以上に多く、それも主婦、教員および公務員等多様であった。本県の日本画の人口が一時低迷した時代があったが、今回の計画は今後に明るいものを与える材料である。しかしながら、講師の確保、一般の方々への周知等残されている問題も多い。

12　彫塑夏期研修会

本県彫塑の水準を高めるとともに指導者の養成をはかる目的をもって、福島彫塑会、福島市教育委員会と共催で実施した。

(1)　期　　日
７月31日～８月２日（３日間）
(2)　会　　場
県立福島高等学校　工芸教室
(3)　講　　師
三坂耿一郎（日展審査員）
菅野　忠良（日本彫塑会会員）
(4)　参　加　者
64名（内初心者16名）
(5)　内　　容
◦研修内容
◦原型のとりかた
◦習　　作
◦これからの活動について
彫塑は特別な人たちのものとしてうけとられていた部門の研修会であったが、初心者16名の参加を得たことは、本県彫塑人口を拡大する糸口を見いだすことができた。今後継続的な開催と財政的援助が問題となっている。

13　音楽指揮者研修会

本県音楽水準をさらに高めるとともに指導者の養成をはかる目的をもって県合唱連盟と共催で開催した。

(1)　期　　日
８月23日～24日
(2)　会　　場
いわき市常磐　浅貝保養所
(3)　講　　師
皆川達夫（宗教音楽家）
小山章三（国立音楽大学助教授）
高野広治（ＦＭＣ混声合唱団指揮者）
(4)　参　加　者
72名（学校関係66名　社会教育関係６名）
(5)　研　修　内　容
◦合唱音楽の歴史